

・・・登頂ルート「クローズド&オープン」についてのお願い・・・

県内関係者各位

盛夏の候、皆様にはいかがお過ごしでしょうか？

地球温暖化が原因ではないにしても、極端な気象が続いており、世界的に様々な活動が影響を受けている昨今です。

その省エネのシンボルとされた自転車は、震災の教訓からその良さが再認識され、さらにインバウンド需要もあって、自転車活用推進計画を国が主導する空前のブームとなっています。

しかし、歩行者的利用と自動的利用という二面性がある、原則車道の左端走行という自転車に対し、警察が困惑しているのも事実です。

その警察も黙認する「THT26◆◆自転車さんぽ」に着目し、それをアレンジしたザッピング企画「岩国かるたドライブ」を最近の活動の軸としている“いわくに研究会”では、山口きらめき財団のスタッフを始め、サイクル県やまぐちProjectの担当者や、やましろMTBツアーズの関係者と情報交換をする中で、幅広く自転車関連企画を扱う可能性が出て来ました。

「街道」「山道」「町の道」。オープンロードでのサイクリングを考える場合、三種類の道を網羅する必要があります。しかし日本では、個人で楽しむサイクリングは道路の自由使用として認められているものの、グループ活動やレースを含むイベント利用は、法的に曖昧であり制限を受けています。

その日本の実情を、ロードレースも実施している欧米の考え方と比較したものが下記になります。

▼日本的サイクリング：道路の自由使用の範囲で個人や仲間や知り合いと楽しむ
ソロ<クラブ≦ガイド≦コンペ≦イベント<レース

▼UCIレギュレーション：サイクリングとはレースを含むスポーツサイクリング全般
ソロ≦クラブ≦ガイド≦コンペ≦イベント≦レース

自転車ソフト六分割チャートと名付けたもので、ソロ活動からレース活動まで「≦：連続」になっている欧米と、その間のグループ活動が「<：不連続」になっている日本との違いが見えて来ます。それを考えるに至った理由などは「検索⇒THT26」で「外堀内堀多様性」をチェックして頂くとして、～登頂ルート「クローズド&オープン」についてのお願い～についてです。

まず「毛利チャレンジ」と「サイクル県やまぐち」の関係は、どちらも今年の秋に迎える明治維新150周年を意識した企画で、縁あって距離が近づいたものです。

次に「クローズド&オープン」とは、クローズドサーキットをメインに募集し、オープンロードをサブメニューで実施しながら、「<：不連続」と「≦：連続」を12項目の「街道・山道・町の道」で模索する長期計画です。そして、(1)自転車さんぽ◆◆毛利チャレンジ(町の道)、(3)羅漢スターリッジトレイル(山道)、(6)山口ブルベ・スペシャルデイ(街道)の3項目を山口先行実施としています。

そして「登頂ルート」とは、自転車市民権獲得という山頂へと続いている道で、日本の実情は、『その登頂ルートを探して、未だ麓をウロウロしている状態』と言えます。

つきましては、自転車市民権獲得に向けた「クローズド&オープン」を実践する「地域貢献型マルチサイクリングクラブ」の基礎を、山口県で全国に先駆けて築くために、オール山口の協力を必要としており、人材協力、集客協力、相互協力、パートナー協力、等々で、皆様の元気玉を少しでも分けて頂けるよう、お願い申し上げる次第です。

2018年7月15日

コースクリエイト山口&いわくに研究会 企画担当 / 石丸英明